

臨床脳波学 第6版

大熊 輝雄, 松岡 洋夫, 上埜 高志, 齋藤 秀光【著】

評者

丹羽 真一 福島県立医科大学名誉教授・神経精神医学

大熊輝雄先生の『臨床脳波学』の第6版が2016年11月に出版された。同書の第1版が出版されたのは1963年11月であるから初版以来53年が経過し、その間に5回の改訂がなされたわけである。1999年の第5版出版までは大熊先生が単独で改訂作業がされたが、第6版は松岡、上埜、齋藤の3氏が改訂作業に加わられた。3氏とも大熊先生が東北大学教授在任中の臨床脳波学の弟子であり、その薫陶を受けられ脳波学に造詣が深く改訂作業を担当されるにふさわしい方々である。

第6版への改訂作業は、大熊先生が3氏へ改訂を依頼された2005年秋に始まった、と「序」に述べられている。途中、2010年9月に大熊先生が亡くなられるという不幸があり、また2011年3月には東日本大震災が起きて3氏は宮城県などの被災者救援、被災地域医療の再生に奔走され、改訂作業は一時中断せざるを得ないこととなるなど困難な道程をたどった。それだけに改訂第6版が出版されたことを、本書の利用者・愛読者の1人として大いに喜びたいと思う。

今回の改訂の要点は、①第5版までに大熊先生が到達された脳波学の高みを十分に保持すること、②「臨床編」「基礎編」と大きく二分されていた構成を、「総論」「疾患編」「応用編」「基礎編」の4部

構成へと改めること、③21世紀に入り進歩が著しい脳波と関連領域につき新たに項目を設けること、④第5版に含まれる項目についても引用文献で古くなったものを新たな重要文献に置き換えること、⑤巻末に一括して記載されていた引用文献を各章末に移すこと、⑥日本臨床神経生理学会が作成した新しいガイドライン・用語集を紹介すること、⑦国際臨床神経生理学会連合作成の用語集を新しい1999年版に置き換えること、⑧目次に用いる数字を算用数字に統一してみやすくすること、にあると思われる。

個々の改訂点をいくつかピックアップして紹介する。第1章「脳波研究の歴史」が大幅に改訂され最新の動向まで記載された。第2章「脳波検査法」で日本臨床神経生理学会の「検査基準2002」が紹介された。また、第5版までは途中に配置されていた「脳波所見の判読」「脳波検査室」が総論に移された。第9章「小児疾患の脳波」に神経発達障害の脳波の項目が追加された。第10章「頭痛の脳波」からめまい、メニエール症候群と脳波が削除された。第11章「睡眠障害の脳波」が大幅に拡充された。第16章「脳器質性疾患の脳波」にレビー小体型認知症が追加された。第20章「脳波分析、脳磁図、脳画像」に新しい脳波解析法が、脳磁図の項目に磁気刺激法

が追加され、まったく新しく脳画像の項目が設けられた。第21章「誘発電位、事象関連電位」に「神経振動、事象関連脱同期、事象関連同期」が追加された。

これらの改訂により、第6版への改訂目標は首尾よく達成されていると思う。

現在、わが国では臨床脳波の教科書というべき単行本が少なくなり、包括的な記載のある単行本としては日本臨床神経生理学会認定委員会編『臨床脳波を基礎から学ぶ人のために：モノグラフ』（日本臨床神経生理学会、2008年）、末永和榮・松浦雅人著『デジタル臨床脳波学』（医歯薬出版、2011年）があるものの、大部な教科書はおおかた改訂されなくて絶版となっている。その中であって大部ではあるが第6版まで改訂を重ね出版され続けていること自体が大熊臨床脳波学への信頼とその価値を示していると言える。精神神経領域の医学・医療、脳科学研究に従事する人々が本書を教科書として座右に置かれ活用されることをお勧めする次第である。

B5・頁724 2016年11月
定価：本体18,000円＋税
[ISBN978-4-260-01449-6]
医学書院刊